



TITLE:

本年の獅子座流星の観測について

AUTHOR(S):

小槇, 孝二郎

---

CITATION:

小槇, 孝二郎. 本年の獅子座流星の観測について. 天界 1933, 14(151): 8-8

ISSUE DATE:

1933-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165438>

RIGHT:

## 本年の獅子座流星の観測について

小 横 孝 二 郎

再び Leonids の出現期が来た。昨年の貧弱な出現から推して、本年の観測を悲觀的に見る事は時期尚早である。前回の例もある事だから昨年或ひは一昨年以下の出現程度と見ることは必ずしも出来ない。こゝ二三年はまだ観測を忽にしてはならないと思ふ。

本年の観測のプログラムは先づ昨年度通りでやつていただきたい。幸ひ極大期は新月の時期に相當してゐるので、昨年の如き月の邪魔のないのが實に有難い。各日の出現状況、極大日時程度、は云はすもがな、寫眞觀測も望遠鏡的觀測も、亦痕の觀察もやつていただきたい。

昨年度の成績から推して、注意すべき點は少しとしないが、其の二三を述べて参考に供したい。第一は觀測網の不備であつた事である。昨年は極大前の數個の觀測の不完全であつたことは争はれぬ事實である。臺灣や朝鮮滿洲の會員には是非御援助を願ひたいものである。次に極大時の出現について週期的な變化をみとめたのであるが、これを確定的のものにしたい事から 6 人位一組になつて全天に於ける Leonids を見逃さぬ様、遺漏なき Counting をぜひやつていただきたい事である。全國の觀測者がみとめた出現の極大時刻が一致しなければ是認することが出来ないので特に注意を促す次第である。

寫眞觀測は昨年是一個の不完全のものを見たにすぎないが、アメリカやロシアにもかなりの成功を見てゐるのであるから本年も寫眞機の所有者はぜひやつていただきたい。本年 8 月 20 日廣島縣竹原町の吉井耕氏は觀測中流星寫眞を二個得られた。(目下調査中) かやうな事實から適當な工夫をすればかなり可能性のあるものではなからうかと思ふ。

輻射點の移動も、痕の精細な觀察も亦重要である。又昨年のレオニズ觀測中同一の流星の觀測によつて實經路を求め得たものは僅かに 4 個しかなかつた事實から、各觀測班に於てよく協同せられて、充分の成功を期せられたく希望するものである。

(1933, 10, 21.)